

令和3年度

上高井郡市PTA連合会 研究集会分科会レポート

高山小学校

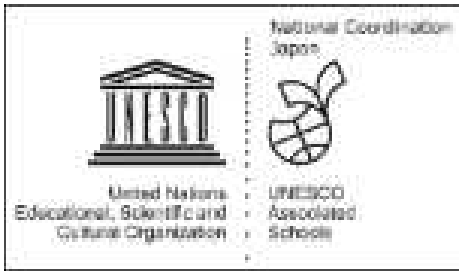
須坂小学校・須坂支援学校

日滝小学校

日野小学校

常盤中学校

東中学校



学校・家庭・地域をつなぐ 「わくわく村」

～ユネスコスクールとして持続可能な社会づくりに向けた教育の新しい在り方～

1 高山村・高山小学校について

高山村は県北部に位置し、隣は群馬県と境をなしています。

春は桜の名所、秋は紅葉に包まれ、四季折々の自然と温泉の豊かな所です。

「日本で最も美しい村」連合に加盟しており、気候、風土など自然条件に恵まれ、りんご、ぶどうの名産地として、近年ではワインの産地として注目を浴びております。高山小学校は村内唯一の小学校で、現在児童数は299名で、平成27年には「わくわく村」の活動が評価され県内小学校では、2番目にユネスコスクールに加盟しております。

2 高山小学校 PTA 「わくわく村」とは

地域の方々と共に企画した講座、教育委員会生涯学習の企画した講座に親子で参加して体験や物作りの中で学校では学べない「体験」や「ふれあいの輪」を育む活動です。

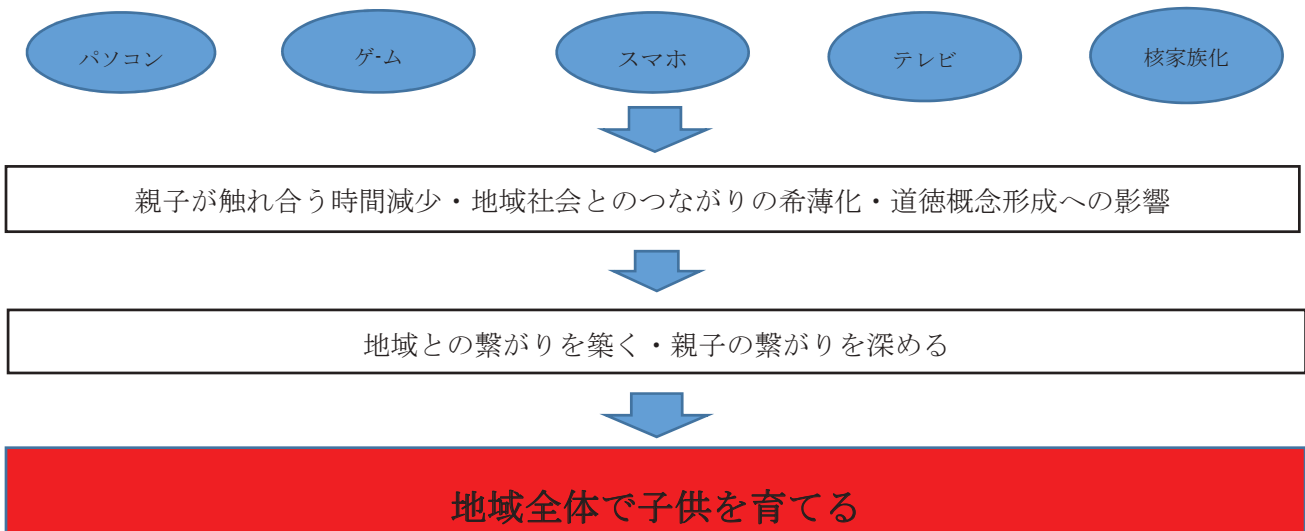
平成16年に高山小学校のPTA活動として生まれ、今年度で18年目となります。

3 「わくわく村」の想いと願い

現在、家庭や地域の生活環境は昔に比べて大きく変化しております。

子供達の外遊びも減り、パソコン、スマホ、ゲームなどのネット社会となり、人との繋がりが減り感動や喜びや悲しみや人の痛みを知らない子供や大人達が増えているように思います。

「地域の子供は地域で育てる」思いで高山小学校PTAから「わくわく村」は生まれました。地域の大人が「ズク」を出して「ふれあいの場」や「学びの場」から感動や喜びを感じ、多くの人との「ふれあい」や「経験・体験」は子供の育成にとって大きな財産になると思います。また、多くの輪が出来る事で地域の活性化に繋がり、人と人の絆に広がり子供達の安全へも繋がって欲しいとの願いで始めました。



4 「わくわく村」のあゆみ

「わくわく村」を始める以前は、例年 PTA 交流会として「クラス対抗保護者スポーツ大会」を実施していました。文化委員会主催で、PTA 役員、クラス委員他で参加者は例年 100 人程でした。もっと PTA 活動を元気にしたいという考えから、子供達と地域の人達でふれあいや体験ができる活動ができないか？と考えました。

そこで、PTA・学校・地域が一体となり、平成 15 年に「クラス対抗保護者スポーツ大会」から「親子わくわくデー」として開催しました。PTA 三役会が主催となり、親子で地域の人達と一緒に「学び」・「遊び」・「ふれあい」を目的とし将棋、大正琴、そば打ち、温泉を知ろうなど 19 講座開催しました。当時は 1 日の開催で、児童 520 人保護者約 490 人で約 1000 人の参加者で、スタッフは約 60 名となりました。結果子供・保護者・学校・地域・公民館が一つとなりました。但し、アンケートの結果「日頃できない親子の触れ合いができてよかった」（約 7 割）等の嬉しい回答の一方で「2 時間で 1000 人参加の講座を役員が対応するには負担が大きい」「役員は子供と触れ合え無い」「公民館の講座と重なり公民館の講座参加者が減った」などの回答がありました。

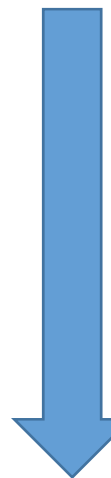
アンケート結果を踏まえ、PTA・保護者・学校・文化協会教育委員会・公民館から意見を聞き 1 日開催から半年開催へ、さらに講師を学校へ招いたり、地域企画に参加したりすることになりました。また公民館の活性化については公民館企画に日程を合わせて開催し、地域発展については地域施設団体に依頼するなどしました。高山村でのびのび育てている子供達でも全く問題が無いわけではありません。子育てに悩む保護者も少なからずいます。事件・事故・犯罪から子供達を守るには？開かれた学校作りとは？子供達がのびのび育つ環境にはどうしたらよいか？など考えた結果、「地域の子供は地域で育てる」という想いで、平成 16 年から「わくわく村」がスタートしました。

今年度で 18 年目となります。昨年から新型コロナウイルスにより開催中止の検討もされましたが、開村式と一部講座をグーライトによるテレビ放送としたり、感染防止対策を講じたりしながら開催できる講座を企画しました。但し例年 11 月に実施していたわくわく村の発表会を含む「しらかば学習発表会」は、昨年同様今年度も中止としました。

平成 14 年まで
「クラス対抗保護者スポーツ大会」



平成 15 年
「親子わくわくデー」



平成 16 年
「わくわく村」スタート

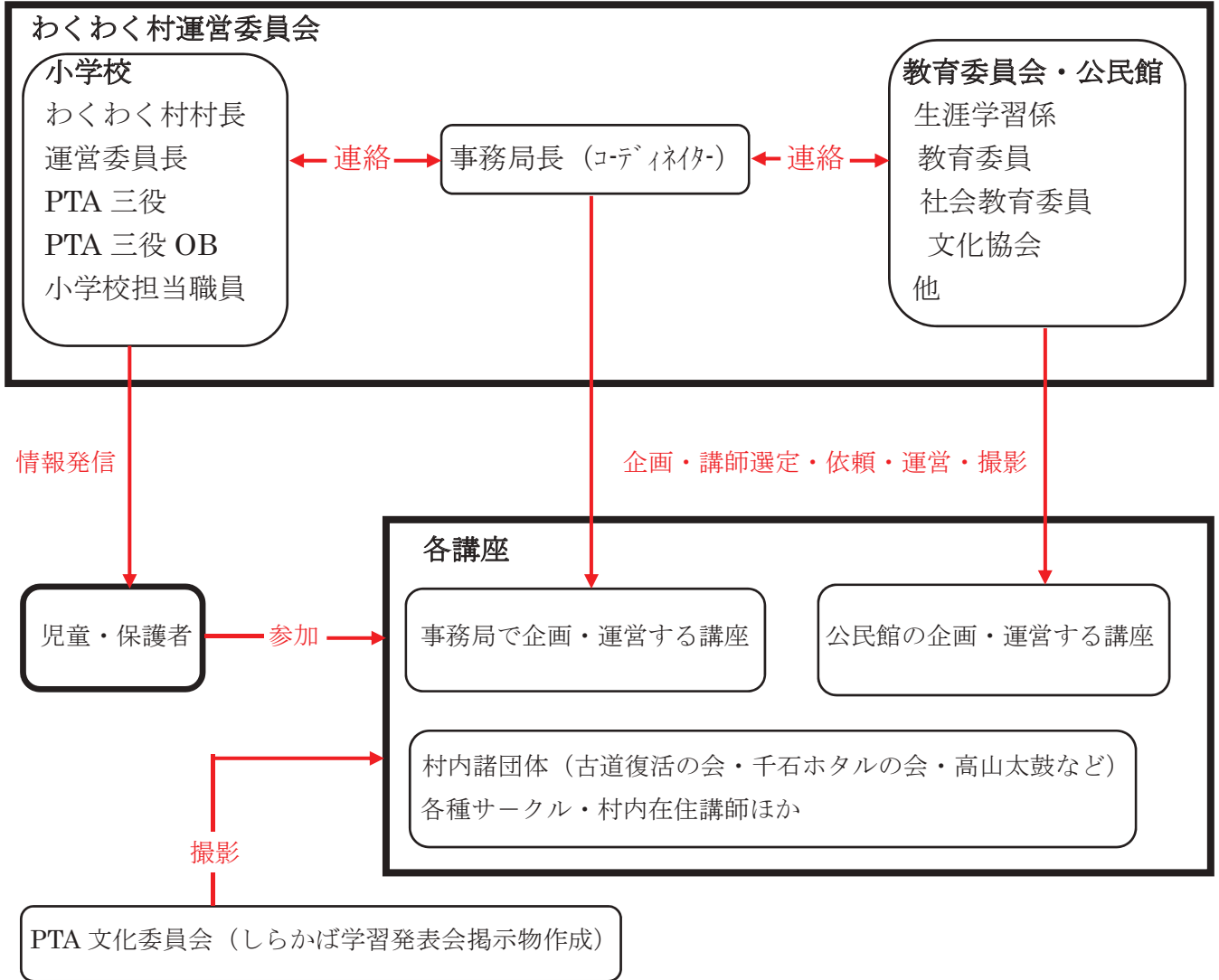


令和 3 年（18 年目）
一部テレビ放送を活用して
「わくわく村」開催

5 「わくわく村」の運営組織

- わくわく村村長 ➡ PTA 会長
- 運営委員長 ➡ 前 PTA 会長
- 事務局 ➡ PTA 三役・学校担当職員・村生涯学習課・コーディネーター（三役 OB）
- 運営委員 ➡ PTA 三役・三役 OB・PTA・学校職員・教育委員会・社会教育委員・文化協会他

わくわく村運営組織図



6 「わくわく村」の年間日程（太字は例年から今年度変更箇所）

1月～3月	講座企画会議➡講座の決定
4月上旬	第一回運営委員会➡講座内容確認・1年間の流れ
4月中旬	常任委員会・PTA 総会➡「わくわく村」の説明
4月中旬	予定講座・日程表➡児童に配布
5月上旬	第二回運営委員会➡「わくわく村」の進め方・開村式確認
5月	希望調査表➡児童に配布・回収・集計➡講座内容・参加人数表配布
5月下旬	「わくわく村開村式」➡ グーライト撮影によりテレビ放送に変更
6月～11月	各講座➡ 今年度 17 講座+テレビ放送 1 講座 ➡各講座写真・テレビ撮影
11月	しらかば学習発表会➡ 今年度は中止 ➡随時わくわく村だよりにて紹介
12月～1月	アンケート➡配布・回収・集計➡結果わくわくだよりにてお知らせ➡反省会

7 「わくわく村」講座の過去～現在

	平成 15 年親子ワカゲ-	平成 16 年わくわく村 (初年度)	平成 27 年わくわく村 (12 年目)	令和 3 年わくわく村 (18 年目)
1	高山太鼓	高山太鼓	親子高山太鼓教室	親子高山太鼓
2	絵手紙	切り絵教室	切り絵教室	切り絵教室
3	押し花	花作り教室	押し花教室	ハーバリウム教室
4	蝶・植物	自然再発見教室	ホタル学習教室	ホタル学習教室
5	温泉の不思議	夏休み峠を歩こう	古道を歩こう教室	古道を歩こう教室
6	フラワーアレンジメント	フラワーアレンジメント	草木染め教室	アートとデザイン教室
7	ソーラーカー	天文学教室	満天星空観察教室	星空学習観察教室
8	大正琴	親子木工教室	親子木工教室	親子木工教室
9	写真教室	茶道教室	カメラとウォキング教室	カメラ体験教室
10	たこ作り	親子凧作り教室	ちびっこ消防士親子体験	わくわく自然探検
11	マジック	マジック教室	フット x 俳句教室	俳画教室
12	ダンス・ゲーム	社交ダンス教室	ヒップホップダンス教室	親子レクレーション教室
13	むかし遊び	太極拳教室	親子スポーツ教室	朝活ゆったり太極拳
14	読み聞かせ	読み語り	ユネスコパーク見学体験	一茶の里学習教室
15	理科実験	科学教室	太田堰・湯倉洞窟へ行こう	太田堰・湯倉洞窟へ行こう
16	囲碁・将棋	囲碁教室	布ぞうり作り体験教室	布ぞうりと和綴じ作り教室
17	そば作り	考古学教室	どろだんご作り教室	文化財を訪ねて
18	ひんのべ作り	親子料理教室	ヘルシークッキング教室	手作り飛行機教室 (テレビ)
19	おやき作り	陶芸教室	コリキ教室	
20		ビーズ教室	パッチワーク教室	
21		華道教室		
22		書道教室		
計	19 講座	22 講座	20 講座	17 講座+1 講座 (テレビ放送)

講座内容

開村当時から続けて行っている講座もあれば一度やめて復活したり、名前が変わったりと時代背景で、取り止めや新しい講座があるのが分かります。今年度当初プログラミング講座を予定してましたが、来年度できるかな？

講座数

開村当時から現在も 20 講座前後行ってます。今年度は、新型コロナウイルスの感染防止対策が困難な講座は予定から外しているのので、例年より少ないです。又手作り飛行機教室は、夏休み中にテレビ放送にて行いますので、全員が参加可能となっております。

その他

講座回数は、1 回の講座もあれば、2 回、3 回、5 回の講座もあります。金額は、講座内容によって 1 回 100 円～1000 円ぐらいで、公民館主催事業は公民館設定金額と同じにしています。場所は公民館の他、学校、YOU 游ランド、一茶館など講座内容によって変わります。山間部の体験講座は、バスで移動します。

8 「わくわく村」の講座活動の紹介



どろだんご作り教室

場所 小学校

講座回数 2回

ヘルシークッキング教室

場所 公民館

講座回数 2回



ホタル学習教室

場所 三郷・千石地区

講座回数 2回



押し花教室

場所 公民館

講座回数 2回



古道を歩こう教室

場所 牧場～温泉

講座回数 1回





ちびっこ消防士親子体験

場所 消防署

講座回数 1回

親子レクリエーション教室

場所 中学校体育館

講座回数 3回



切り絵教室

場所 公民館

講座回数 4回



太田堰・湯倉洞窟へ行こう

場所 役場駐車場～太田堰

講座回数 1回



布ぞうりと和綴じ作り教室

場所 歴史民俗資料館

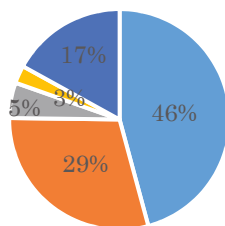
講座回数 1回



9 「わくわく村」アンケートと意見

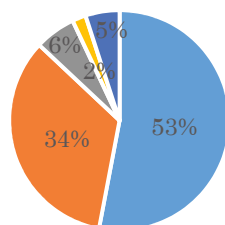
令和2年度のアンケート

【保護者】子供達は講座に参加して興味や関心をもって楽しく学べたと思う。



■ そう思う ■ だいたいそう思う ■ あまり思わない ■ 思わない ■ 無回答

【保護者】地域とふれあい学べる「わくわく村」を来年も続けてほしいと思う。



■ そう思う ■ だいたいそう思う ■ あまり思わない ■ 思わない ■ 無回答

令和2年度の意見（抜粋）

- ・ 普段一緒にできない事を、わくわく村のおかげで子供と一緒にできました。1年1年成長していく姿をわくわく村でも感じる事ができました。これからも良い活動を応援しています。
- ・ コロナで中々活動するのが困難な中、開催して参加する機会を作っていただいた事に感謝します。子供達にとって高山村を感じる、高山村を思う大切な活動としますので、来年も是非続けてください。
- ・ 星空観察しました。息子が星に興味を持ったようです。色々体験して興味を持つこと大切だと思います
- ・ 両親ともに土曜日も仕事をしている為、参加できませんでした。コロナの影響で日程がでるのが近いことがあったりして、1か月以上前に勤務希望を出さなくてはならず難しい所があります。

10 「わくわく村」の功績

1. 平成19年 abnふるさとCM大賞で「八十二銀行賞（準優勝）」を受賞。
2. 平成22年 「わくわく村」の活動が評価され、文部科学大臣賞を受賞。
3. 平成27年 「わくわく村」を通じ人間性を育んだり他者や社会、自然の理解尊重などもつながっていることが評価され、県内小学校では2校目の「ユネスコスクール」に加盟。
4. 令和2年 「わくわく村」の活動が評価され、長野県教育委員会より「社会教育功労賞」を受賞。

11 「わくわく村」と学校との連携

文部科学省及び日本ユネスコ国内委員会では、ユネスコスクールを ESD の推進拠点と位置づけています。ESD (Education for Sustainable Development) とは、持続可能な開発の為の教育と訳され、現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近な所から取り組むことにより、それらの解決につながる新たな価値感や行動を生み出すこと。そしてそれによって**持続可能な社会を創造していく担い手を育む教育**を意味します。高山小学校はユネスコスクールとして、UNESCO 及び ESD の理念を積極的に推進する役割を担う学校として自覚と責任をもって、日々の教育活動に取り組んでいます。

高山小学校は「わくわく村」と連携して以下の ESD の目標を立てています。

- (1)ふるさとの豊かな自然や歴史・文化に触れ魅力を知りふるさとを誇りとして、自身のアイデンティティ基盤として、ふるさとを守り育てていく担い手としての力を付ける。
- (2)互いに切磋琢磨し合い、交流体験を重ねながら人と人との繋がりや関わりを尊重し、コミュニケーションの力を向上させる。
- (3)ユネスコスクール同士の交流や村外・県外との交流を通し、地域の良さを見つめ直すと共にグローバルな視点を持ち、ひいては国際的な視野や感覚・行動を向上させる。
- (4)未来社会の厳しい現実に向かい立ち向かう力を付ける。

12 「わくわく村」に息づくものと今後

- 1 「地域の子供は、地域で育てる」という機運の高まり
- 2 共育の輪の広がり⇒地域連携・人材育成
- 3 SDGs との関連⇒ユネスコパークの自然・地域産業・人と人との繋がり
- 4 地域への愛着の高まり⇒地域の人・物・事から学ぶ、地域への愛着＝アイデンティティの基盤
- 5 「わくわく村」のあゆみが、持続可能な社会を作るあゆみそのもの

最後に初代「わくわく村」村長、現「わくわく村」事務局コーディネーター、黒岩清道さん（通称トトロさん）の「わくわく村」の振り返り（抜粋）を紹介します。

「わくわく村」を通じて学校での児童の育成の仕方も、先生方だけの努力から地域と一緒に育もうと変わり広い角度から児童の育成に繋がっています。公民館や行政事業も、地域の人達と一緒に作り上げる形に変わり、子供の育成や地域の成長を意識する進め方にかわりました。

多くの児童が、保護者が、教員が、そして地域が、この「わくわく村」でそれぞれとの繋がりを感じとりそれぞれが変わったと感じています。「地域の子供は地域で育てる」という思いを、地域に広めたいと考えて始めた「わくわく村」です。共に育んだ「共育の輪」が完成に一步近づいたものと考えています。

私たちは、親子が共に楽しめる講座等の設定により親子の触れ合いの場を提供すると共に、地域に開かれた学校づくりの一端を担い、地域と学校との繋がりにより今後も課題を解消しながら、魅力ある「わくわく村」を運営し、「地域の子供は地域で育てる」という機運を高めていきます。（黒岩清道さん）

学校・家庭・地域をつなぐ「わくわく村」をこれからも笑顔いっぱい継続していきたいと思ひます。



「共に学び、共に歩むPTA活動」



～10周年を迎えた須坂支援学校とコロナ禍でのPTA活動について～

須坂小学校・須坂支援学校 PTA

1. テーマ設定理由

須坂小学校PTAは須坂支援学校開設に伴い、須坂小学校・須坂支援学校PTAとして共に活動しております。併設校としてのPTA活動や、時代の変化に即した取り組み、昨年10周年を迎えた須坂支援学校の今とこれから、昨年からの新型コロナウイルス感染症予防対策で変更を余儀なくされた当校のPTA活動を知っていただき、各校のPTA活動の参考になればと本テーマを設定しました。

2. 須坂小学校・須坂支援学校PTAの概要

1) 歴史

須坂小学校は今年創立148年を迎える須坂で一番古い小学校です。

須坂市の中心市街地にあり、かつては児童数も1600人を超えた大規模校でしたが、現在の児童数は207人、10クラスです。須坂小学校の特長的な活動は6年生全員で行う鼓笛です。



鼓笛演奏（兔ひす講）

50年以上前から続いており、毎年素晴らしい音色を響かせています。

須坂支援学校は今年で創立11年を迎える須坂で一番新しい学校です。

現在、小学部18人、中学部11人です。

「地域の子どもは地域で育てる」という教育理念のもと小学校区に関係なく須高地区全域から支援を必要とする子どもたちが通っています。

須坂支援学校を須坂小学校の空き教室を利用して開設するにあたり、須坂小学校PTAは須坂小学校・須坂支援学校PTAとして共に活動しております。

2) 組織と構成

本会役員

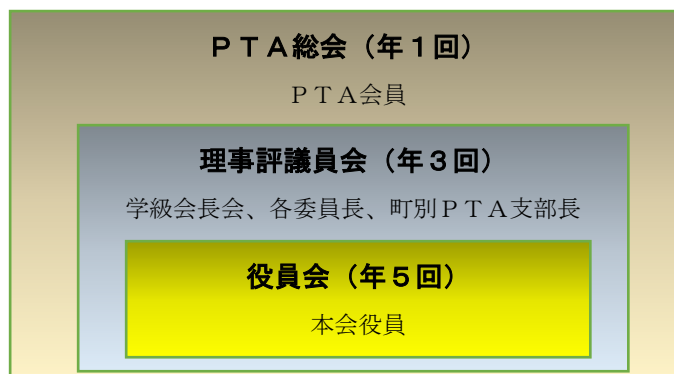
- ・ 参与1人（校長先生）
- ・ 顧問2人（前年度会長、前年度女性副会長）
- ・ 会長1人
- ・ 副会長5人（次期会長予定者、女性副会長、支援学校副会長、各校教頭先生）
- ・ 幹事3人（一般会計、特別会計、会計報告）
- ・ 監事2人（会計監査）
- ・ 事務局3人（各校PTA担当教諭、事務担当職員）

☆（ ）内の先生・教職員以外はすべて保護者側から選出

専門委員会等

- ・ 学級会長会（PTAコーラス部を含む）
- ・ 生活指導委員会（町別PTA支部長会）
- ・ 人権教育委員会
- ・ 教養委員会
- ・ 施設・厚生委員会

3) 会議



・その他各委員会による会議（出席者：各委員 随時）

※会議はおおむね 18 時 30 分以降に行われる

（PTA総会はおおむね 15 時ごろから開催）

4) 会長・本会役員の選出方法

副会長選出対象学年の保護者による立候補および推薦により選ばれた副会長候補者から、本会役員の三役（会長、副会長、顧問）を中心に選出しています。

5) 予算と使い道

PTA会費を収入源とした一般会計は通常のPTA活動に使われます。特別会計は資源回収・PTA祭りの収益を主な収入源とし、周年事業の開催費用や鼓笛の楽器の修繕等に使われます。

3. 須坂小学校・須坂支援学校PTAの主な活動（令和元年度までの活動実績）

下記の行事はすべて須坂小学校・須坂支援学校で共に活動しています。

1) PTA作業

・全学年の保護者・6年生・全教職員が参加し校舎内外の整備活動を実施

2) PTAスポーツ大会

・クラス対抗のソフトバレー大会

・須坂支援学校も1チームとして参加



平成30年度PTA作業の様子



熱闘！PTAスポーツ大会（H30年度）

3) 資源回収

- ・各町子ども会で収集しグラウンドに集める
- ・本会役員・6年生はグラウンドでお手伝い
- ・支援学校の皆さんは当日の参加が難しいため送迎時間帯に事前回収の形で参加



回収した資源をグラウンドに集める (H30年度)

4) PTA祭り

PTA役員が中心となって企画する縁日型のイベントです。普段目にする事のない校長先生のエプロン姿等、児童・生徒たちも毎年楽しみにしている地域の皆様にも楽しんでもらえるイベントです。

- ・バザー
- ・レインボーショップ (須坂支援学校)
- ・各種ゲーム (射的・スタンプラリー・ボウリングゲーム等)
- ・飲食物販売 (わたあめ・ジュース・アイス等)



H30年度PTA祭り (校長先生が作る綿あめも大人気)



H30年度PTA祭りレインボーショップ (須坂支援学校)

5) 運動会

競技は須坂支援学校の児童も一緒に行っています。PTAは準備・後片付けの手伝いを行い、競技 (児童と一緒に大玉送り) にも参加しています。



日の丸の旗を両手に全員でダンス



須坂支援学校の児童も一緒に走る!

伝統あるダンス競技の「日の丸の旗」は運動会のフィナーレに日の丸の旗を持って踊ります。親も参加可能です。

4. 時代の変化に即したPTA活動

1) ITの活用

- ・表計算ソフトの活用
スポーツ大会の得点・順位集計に時間がかかった。
→表計算ソフトを使用し得点の入力により順位が一目でわかるようにした。
- ・LINEの利用
以前は電話・メールでの連絡が主で、会議の回数も多かった。
→LINEのグループ機能により、一斉連絡が可能となり、会議で検討していたような内容について意見をうかがうことも可能となった。

2) 地域との関わり

- ① くぬぎの時間（総合的な学習の時間）
地域の方々に講師になっていただき、子どもたちに様々な知識や経験を伝えていただいています。
- ② 笠鉾行列への参加（令和2年度3年度実施なし）
地域の祭事である笠鉾行列に参加、児童たちも楽しみにしています。
- ③ おやじの会との連携
会長OB、有志の男性保護者に所属していただいています。
おやじの会会長をPTA顧問とし、学校との連絡を取りやすくしています。
PTA作業時に学校からの要望箇所、鎌田山登山道の清掃を協力して行っています。



地域の方に神楽を教えていただく



笠鉾行列で練習の成果を発揮

10周年を迎えた須坂支援学校（1）

県内唯一の市立の特別支援学校そして小学校併設校

須坂支援学校 10年の歩み

須坂支援学校の概要

はじめに、須坂支援学校の概要について説明いたします。須坂に支援学校があることをご存じですか？

「地域の子どもを地域の学校で学ばせたい」・「地域で子どもを育てたい」という保護者や地域の皆さんの声の高まりを受け、平成21年「須坂発 特別支援教育を考える会」が発足し翌平成22年4月**長野養護学校小学部須坂分教室**として児童5名で開室されました。更に翌年の平成23年4月6日「どの子どもそれぞれのニーズに応じた教育を」、「特別な支援ではなく個に応じた分け隔てない支援を」という願いを込めて「特別」が入らない須坂支援学校が児童10名で開校しました。

（1） 須坂支援学校が目指すもの

- ① 地域の子どもが地域でともに育つ教育環境の整備
- ② 特別支援教育・障がいについての地域への理解啓発
- ③ 個別の指導計画を基にした個のニーズに応じた指導の充実
- ④ 須坂小学校との共生と居住地校との交流及び共同学習の推進
- ⑤ 地域における特別支援教育の「センター的機能」の充実

地域の子どもは地域で育てる
障がいのある人も安心して生活できる地域社会へ

（2） 学校教育目標

地域でたくましく生き抜くことのできる心豊かな子供の育成 ～明るい心・元気な体～

- ① 明るく、元気にあいさつできる子ども
- ② なかよく、たのしく生活する子ども
- ③ 進んではたらき、やり抜く子ども

・平成 25 年 3 月 第 1 回小学部卒業式を須坂小学校と
共に挙行

・平成 25 年 4 月 校章制定、中学部開設

・平成 25 年度入学式・中学部開設式を新入生小学部 2 名
中学部 5 名、児童生徒数 20 名で挙行

・平成 27 年 校歌制定

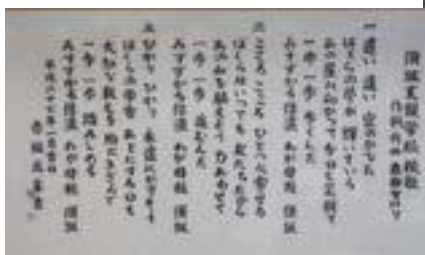
・平成 28 年 「個に応じた配慮・工夫」をすることで、
支援学校児童だけの特別な『須坂支援学校種目』を
設ける必要が無くなり両校一緒の運動会、という感じが
一段と強まりました。

今では運動会や音楽会などの行事、そして P T A などの
組織も「須坂小学校・須坂支援学校」と連名で表記されています。

このように両校の教職員が手探りで『あり方』を模索し保護者の理解を得て、両校のいろ
んなものが『共にある』というのが当たり前になりました。

・平成 31 年・令和元年には中学部に生徒会が発足し、生徒会長は生徒会長選挙により選出
されるようになりました。

・そして令和 2 年 須坂支援学校が 10 周年を迎えました。



平成 30 年度運動会の様子




10 周年を迎えた須坂支援学校（2）

小学部では、須坂小学校の児童と日常的に交流している他、学校行事である音楽会や運動会、
児童会行事などに参加しながら交流を深めています。

中学部の生徒も、隣接する常盤中学校の生徒と交流を深めています。

音楽会では土笛の会の皆さんの応援もいただきながら、練習の成果を発表しています。

子どもたちはこの他にもそれぞれの居住地の学校との交流も行っていて、障がいのある子
にとっても、ない子にとっても、お互いに学び合い高め合う事のできる教育活動となってい
ます。

<p style="text-align: center;">小学部×須坂小学校</p> <p>須坂小学校と共に学ぶ・一緒に作る行事 運動会・音楽会 遠足・修学旅行 プレイルーム交流 PTA 活動・PTA 祭り レインボーショップ</p> 	<p style="text-align: center;">中学部×常盤中学校</p> <p>常盤中学校と支援学校中学部の対面式 文化祭（音楽会・ 交流会・体育祭）</p> 
<p style="text-align: center;">地域・他校交流</p> <p>ふれジョブ（お仕事体験プログラム）・親善音楽会 中学校ブロック交流・土笛の演奏</p> 	

・令和2年度からの校内での交流

支援学校の生徒が体操やダンスをして1日をスタートさせる「みんなのひろば」支援学校小学部の児童にも小学校の児童にも遊んで欲しいという思いをもって支援学校中学部の生徒が整備しました。そして、昨年のPTA作業で池としての機能が消失していることが判明した観察池を学校が埋め立て「みんなのひろば」の一部として現在も整備をしています。



支援学校中学部が整備した「みんなのひろば」

今では須坂小学校の児童も支援学校の児童も一緒に前庭・中庭で当たり前に遊びます。



支援学校の児童の三輪車が通り過ぎるのを待つ須坂小の児童

同じ時間・同じ場所を共有し共に過ごす中で共に学びます。児童に聞くと、隣にいるのが支援学校の友達だと気づかずに遊んでいることもあるそうです。

このように「共にある」ことが日常化してきている本校。10年後20年後、この須坂小学校・須坂支援学校を卒業した生徒たちがお互いを思い分け隔てなく接している日が来ることを願っています。

・コロナ禍で変化する PTA 活動

新型コロナウイルス感染症の蔓延により、令和 2 年度より P T A 活動の中止や変更を余儀なくされてきました。

現在も事業の中止や変更、次年度への引継ぎなど、その影響をまだまだ受けております。

新型コロナウイルス感染症が蔓延する中、実施出来る事業を見極めていかなければなりませんでした。新型コロナウイルス感染警戒レベル 4・5 の状態においては終息を見通せず、中止を含めた計画を進めなければなりません。

そんな当 P T A の活動履歴が各校の P T A 活動の参考になればと、報告させていただきます。

・ P T A 作業

～令和 2 年 1 0 月

- ・ 本会役員と教職員による観察池の清掃

緊急事態宣言に伴う P T A 活動の中止で 5 月に予定されていた P T A 作業が中止となり、感染状況が落ち着いた 1 0 月に中庭にある観察池の清掃を本会役員・教職員で行いました。

人数を限定したので、P T A 会長・学校教員 P T A 担当・P T A 役員とコンパクトな連絡系統で通知から実施までを 1 週間という期間で行い、観察池を綺麗にすることが出来ました。



池の水を抜き、泥を排出しています

～令和 3 年 5 月

通常の P T A 作業は全学年の保護者・6 年生・全教職員が参加し校舎内外の整備活動を実施します。

しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため通常の P T A 作業は断念し、P T A 作業担当の施設厚生委員・P T A 本会役員・教職員・おやじの会の 5 9 名に人数を絞り、作業箇所を屋外に限定、さらに時間を前半 3 0 分・後半 3 0 分の 2 組に分ける事により、密を避けピンポイントに作業することが出来ました。



築山の土管の中の土砂の掻き出し



畑にたい肥を入れる作業

・ P T A資源回収

須坂小学校・須坂支援学校 P T Aでは、令和2年度・令和3年度と様々な方法を検討し、資源回収の実施に向けて計画をしていましたが、新型コロナウイルス感染症予防の為資源回収を中止いたしました。

本校で検討された感染予防の為の回収方法が各校の参考になればここに報告させていただきます。

- ・ 大人のみでの回収で、回収品目を古紙・段ボールのみとする
- ・ ドライブスルー方式：各家庭、車で運んでもらい接触を少なくする
- ・ コンテナを一定期間常設：学校敷地内に2週間程度コンテナを常設し、児童の登校時、保護者の空き時間に運んでもらい回収する
- ・ 各支部をブロック毎に別け、各ブロック30分で“家庭ごと”に学校に持ってきてもらう

・最後に

このレポートを書いている7月現在、感染警戒レベルは1です。しかし、まだまだ予断を許さない状況で、これからも慎重な P T A活動が求められると思います。

子どもたちが元気に学校に通い笑顔で学校生活をおくれるよう、これからは毎年の計画を積み重ね、その年その年で柔軟に対応できる P T A活動が求められていると思います。

研究テーマ

コロナ禍におけるPTA活動



1. はじめに

新型コロナウイルスの流行で、今までの生活様式が変わり、PTA活動についても、ひとつひとつ慎重に進めていかなければいけない事態となりました。今後、どのような見直しが必要なのか課題を洗い出すことで『子どもたちのために』のPTA活動が出来たらと思っています。

2. 日滝小学校の学校教育目標

学校教育目標

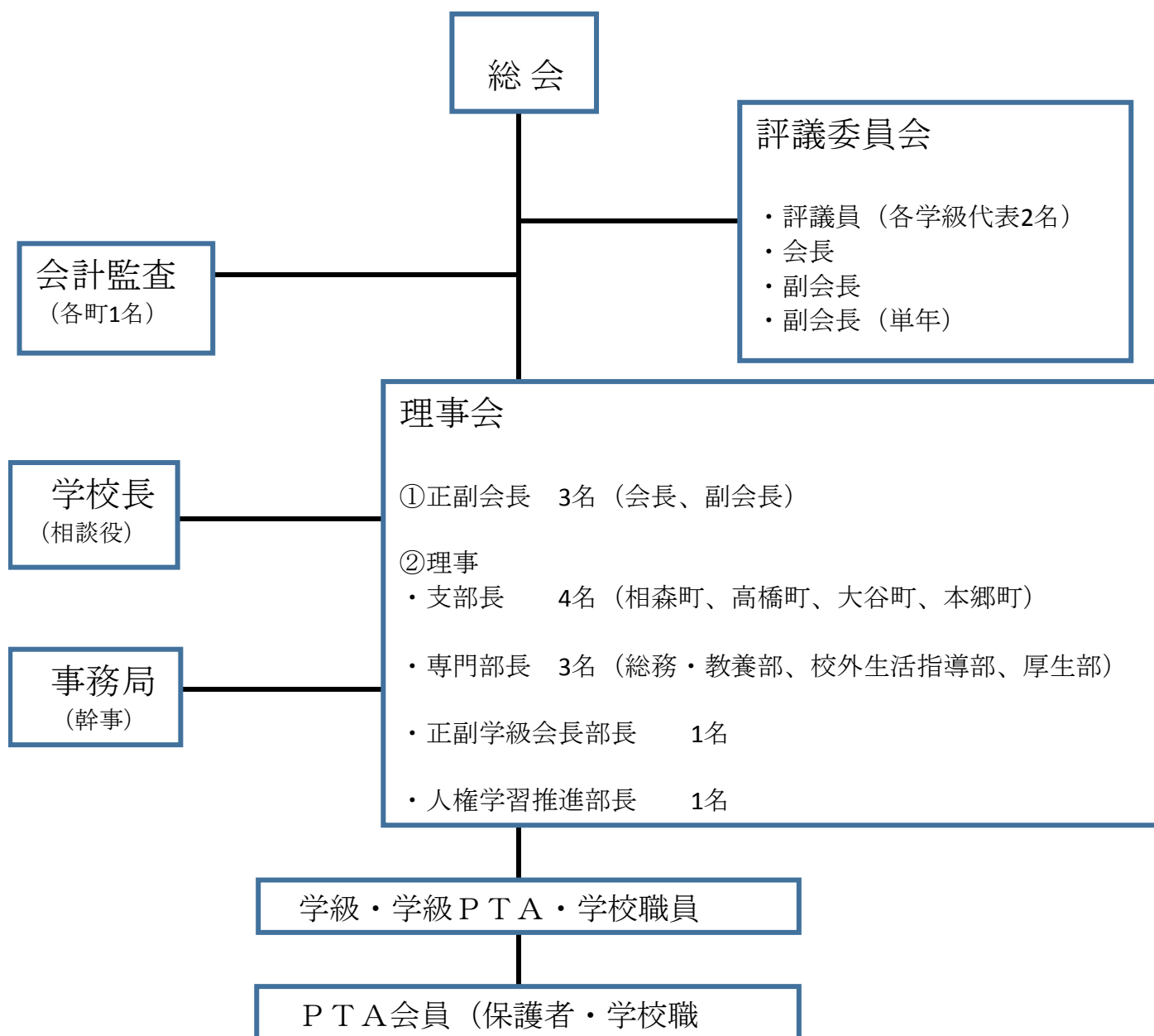
いきいきと みんなで創る 明るい学校

～よく学び（確かな学力） しっかり成長（健康でじょうぶな体） にっこり笑顔

3. 児童数

学年	男	女	計
1	29	35	64
2	23	30(1)	53(1)
3	24(1)	34	58(1)
4	28(3)	29	57(3)
5	32	26(2)	58(2)
6	21(1)	35(1)	56(2)
特別支援	5	4	9
計	162	193	355

4. 日滝小学校のPTA組織図



5. P T A活動内容

正副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理事会の運営（6回）、評議委員会（2回） ・ P T A新役員選出 ・ 各部の事業のお手伝い
総務・教養部	<ul style="list-style-type: none"> ・ P T A作業 ・ P T A新聞作成
校外生活指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全マップの作成 ・ 町別子ども会への参加
厚生部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資源回収（春、秋）
正副学級会長部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学級懇談会の運営（授業参観日） ・ P T Aコーラス ・ 学級P T A活動（親子レクレーション）
人権学習推進部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人権教育講座 ・ なかよし週間中の児童への読み聞かせ
支部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資源回収 ・ ラジオ体操 ・ どんど焼き

6. P T A活動のスリム化に向けて

1. 平成30年度→平成31年度のスリム化

- ① P T A主催の歓送迎会を歓迎会へ
- ② P T A作業を年間2回→1回へ
- ③ P T A親子交流会を年間2回→1回へ

※各部会からの反省及びP T A理事会での協議、保護者アンケートの結果から改革されました。

2. 平成31年度（令和元年度）→令和2年度のスリム化

- ① P T A主催の歓迎会を廃止

廃止決定までの流れ→保護者アンケートを実施

なくす39% 形式を変更(古城荘→体育館)36% 分からない23% 今まで通り2%

事務局としての学校の考え(歓迎される側として)を伝え、歓迎会の廃止を理事会で決定した。

- ② P T A親子交流会を廃止

厚生部主催の親子交流会を年間2回から1回に回数を減らしたが、参加者が少ないことから廃止を決定。令和元年度の参加者数は、275家庭中、親子35組だった。

- ③ P T A会長、顧問の該当学年を1年下げること検討

6学年からP T A会長を選出していたが、5学年でP T A会長、6学年で顧問の方が、学校行事に参加しやすいとP T A会長から提案があった。

理事会で検討し、保護者アンケートを実施

賛成78% 反対2% 分からない19% どちらともいえない1%

- ④ P T A理事会の回数を検討

P T A理事会を年間7回開催予定を令和2年度より6回に減らした。

- ⑤ 町別子ども会の実施時間を検討

令和2年度から、年間3回計画している町別子ども会を5校時→朝の活動時間へ移行
支部長さんや校外指導部長さんが出席しやすくなるように改善した。

【PTA作業】5月15日（土）☀

運動会の練習が始まり、子どもたちが過ごしやすい環境で過ごせるようにPTA作業を実施しました。昨年度はコロナ禍で中止のため、本年度は学校からの要望により外作業のみになりました。



受付前にコロナ対策の消毒を設置



受付は各自で記入してもらいました



総務教養部の役員の皆さんで用具の準備



校長先生のご挨拶
たくさんの先生方に参加いただきました

中庭



中庭は1,2年生が休み時間に遊びます



グラウンド



グラウンド外周の側溝の泥あげ



集めた泥はきつい登り坂の向こうにある畑に処分



作業後 2年分の泥がなくなりました！！



歩道

グラウンド側が歩道より低いため大雨が降ると水たまりになり側溝に泥が流れ込み流れずに更に水たまりができてしまいます。須坂市教育委員会へ改善要望を出しました。



【資源回収】6月12日（土）☀

昨年実施出来なかった資源回収も、1年半ぶりに実施しました。
日滝小学校では4町から軽トラ各6台ほど出動し、家の前に出していただいた古紙、段ボール、などの資源を回収して共撰所に設置したコンテナに積んでいきます(今年はコロナウイルスの影響で瓶の回収は中止になりました)。



コンテナ設置



作業手順の説明、手指消毒をしてから作業開始



軽トラからコンテナへ



混雑しないように交通整備



古紙



段ボール

【親子レクレーション6年生】7月17日（土）☀

本年度の親子レクレーションは全学年、コロナ禍で中止の予定でしたが、6年生の正副会長さんが6年生の思い出にと開催してくれました（例年であれば須坂カッタカタ祭りに参加していましたが、今年は中止になりました）。

夕方に集まり、学校の3階の窓から夕日を見たり、夜の学校を探検したり、花火を楽しんだりしました。子どもたちは、いつもいる時間ではない学校に、ウキウキワクワクしながらお友だちと楽しんでいました。



校舎から夕日を見た後にグラウンドで親子でキャンドル設置 日が沈んで『HITAKI』の文字が見えました

例年のようにカッタカタ祭りに出られれば良かったと思っていましたが、工夫次第で子どもたちの心に残る親子レクができるんだなと思いました。

【例年行っている親子レクレーションの内容】

- 1年生 親子給食食育授業
- 2年生 決まっていない
- 3年生 親子でクッキング
- 4年生 決まっていない
- 5年生 飯盒炊さん（峰の原自然体験学習の為の練習）
- 6年生 須坂カッタカタ祭りへの参加

【ラジオ体操】7月22日（木）☀

昨年度はコロナの影響で夏休みも短い期間でしたので各町中止となりました。今年度は各町ラジオ体操が実施されました。夏祭りは各町中止となりました。



8. 令和3年度PTA活動を実施して

- ① PTA総会は、例年、体育館に集まって行っていたが、コロナ禍で密を避けるため、書面で行いました。
- ② PTA理事会は来年度、更に回数を減らす方向でいます。
- ③ PTA作業は、PTA活動が負担にならないようにと3年前から年1回になりました。こちらは年1回なので、状況に応じて、外作業、校舎内作業で実施していけばいいと思います。
- ④ 資源回収は地域の方々の協力なくして行うことはできません。地域の方々も古紙などたくさん溜めておいてくださり大変助かっております。その中で、軽トラの確保など課題は残ります。
- ⑤ 親子レクリエーションについては、昨年度から理事会でも議題にあがり、廃止か継続かと話し合いがもたれてきました。その中で、「内容が未定だと、どんなことをやりたいか日時などのアンケートからとらなくてはいけなくて負担が大きい」という意見が出されました。
今年度は理事会にて、継続の方向で、内容が未定の学年もほぼ決めておく等して、役員さんの負担を減らして行こうというところまで来ました。日時は学校の方で年間行事に組み込んでいただきたいという要望も出されました。



早く平穏な日常が戻りますように

日野小学校の活動報告

学校・PTA の連携「交通安全教室」

令和3年度

上高井郡市 PTA 連合会研究集会分科会レポート

1. レポート作成の理由

日野小学校では毎年、5月に校内全児童を対象に交通安全教室を行っています。この交通安全教室は、学校職員のほか15名のPTA役員も参加しています。多くの保護者が参加しての交通安全教室は上高井地区の小中学校では珍しい活動ということで、他校のPTA活動の参考になればと思い、本レポートを作成しました。

2. 交通安全教室のねらい

日野小学校すべての子どもたちに交通安全意識を普及、徹底し、正しい交通安全ルールの実践を習慣づける。

保護者が参加することにより、児童の実態を知り、家庭内でも交通安全について話し合いの場を作り、交通事故防止の徹底をはかる。

3. 交通安全教室の概要

① 日時 令和3年5月7日(金) 8:45～11:15

② 場所 日野小学校校庭・日野小学校周辺

③ 参加者

交通安全指導 須坂警察署職員 交通安全指導員

日野小学校教員

交通安全指導協力 日野小学校PTA 生活部役員 12名

日野小学校PTA 会長1名 副会長3名

※警察署職員・交通安全指導員・PTA生活部役員は歩行コース、自転車コースの各担当場所へ配置し交通安全指導を行い、PTA三役は随時巡回指導を行う。



④ 実地練習の内容

1・2 学年 学校周辺での歩行練習

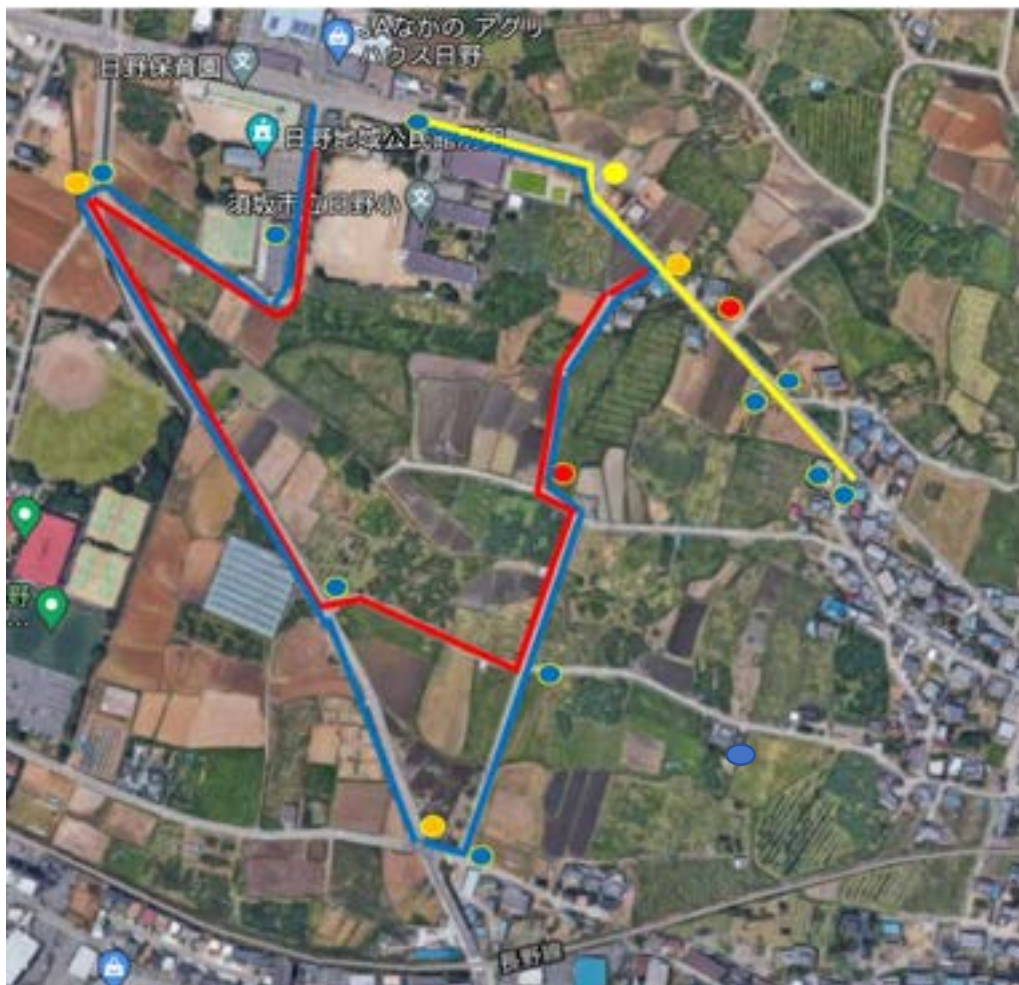
3 学年 校庭での基本的な自転車の技能練習

4 学年 左折を主とした道路での練習と校庭での技能練習

5・6 学年 右折を主とした道路での練習と校庭での技能練習

※交通安全教室の事前に各家庭で点検カードによる自転車点検を行う

4. 歩行・自転車練習のコース



● PTA 役員

● 教員

● 警察署員

● 交通安全指導員

5. 指導のポイント

① 歩行コース

- ・安全確認ができていますか

止まる 手をあげる 右左右に確認

- ・歩道が切れたところでの横断

止まる 手をあげる 右左右に確認 右側通行道路の端を一列で歩く



② 自転車コース

- ・左曲がりの様子

大回りをせずに曲がれているか

- ・道路横断の様子

一時停止をし、安全確認をして自転車を降りて渡っているか



※3年生には各家庭で以下の項目をチェックしていただき、道路での自転車運転を許可している

- ・乗る前のヘルメット着用の習慣づけ
- ・道路の左端の走行、自転車の左側に立つ習慣
- ・自転車の左側での乗り降りの習慣
- ・こぎだす前の後方確認の習慣
- ・スムーズなスタート（ふらつかない）
- ・左側のブレーキからかける習慣
- ・細い道、くねくね道での走行確認
- ・大きく膨らまずに曲がれるか
- ・止まるべき場所での状況判断
- ・横断時、踏切での降車の習慣
- ・安全なスピードでの走行



6. 交通安全教室へ参加したPTA役員・教員の意見・感想

【1学年役員】

- ・子どもとともに交通安全のルールが再確認できる良い機会だと思います。
- ・道路横断の際の左右確認がまだできていない子が多いと感じました。車が止まって道を譲ってくれた後の挨拶がしっかりできていて素晴らしいと感じました。

【2学年役員】

- ・1年生のお手本になるようにとても頑張っていました。校長先生や警察の方が言っていた「命を守るため」の言葉を忘れずに事故のない生活を送ることを祈ります。

【3 学年役員】

- ・左側通行が出来ず、車道側に寄ってしまう子が多数いました。交差点では、直前の左右確認は出来ていましたが、渡っている時は自転車を押すことに夢中になり周りを気にしていない子が多かったです。

【4 学年役員】

- ・道路横断の際の一時停止や安全確認をすること。自転車から降りて押してわたることなど、大切なことを実際に行動で勉強ができる良い機会だと思います。
- ・左折の際は大回りをせず気を付けて運転していました。これからも運転の際は車、歩行者が来るかもしれないとイメージしながら運転してほしいです。
- ・学校周辺の交通量が多かったです。

【5 学年役員】

- ・一時停止する場所についてはしっかり停止をしていましたが、交差点を渡る際、斜めに横断する子も中にはいました。
- ・集団になってしまった時は並走、また、道路中央近くを運転している子もいました。
- ・後方確認が不十分な子が多かったです。
- ・横断歩道の前では多くの車が止まって下さり、その際にはきちんと頭を下げてお礼をしている姿を見て素直にうれしく思いました。
- ・学年だより等で交通安全教室の内容の報告をお願いします。

【6 学年役員】

- ・それぞれの学年に合わせた内容、コースで正しい交通安全ルールを再確認し、子供たちが改めて交通安全の意識を高めることができる良い機会だと思います。
- ・6年生にはなるべく声をかけずに自分の判断に任せていましたが、しっかり自分で判断し、素早くテキパキと行動していました。
- ・横断歩道を渡ってからの後方確認までしっかりできていたので安心しました。

【PTA 三役】

- ・他の小学校の PTA 役員と話をしたところ、PTA 役員が交通安全教室に参加するのは珍しいと聞きました。役員を道路に配置していることで子供たちも安心して練習に参加でき、先生方も児童へ目配りをできるので非常に良い活

動ではないかと思えます。

【教員】

- ・低学年の児童は、保護者の見守りが励みになっていたと感じる。
- ・道路を横断する際に、車の状況を見て、「農作業車があのからいの速さなら十分渡れるな。」と言って判断し、安全に渡る児童が印象的でした。
- ・公道で広範囲での実習を行うので、保護者が児童の安全への見守りや支援をいただけてありがたい。
- ・保護者が子どもの実態（歩き方、自転車の乗り方）を見ていただき、おぼつかない部分や課題を共有できることがありがたい。

7. 交通安全教室後の学校・PTAの対応

交通安全教室終了後には、当日参加して下さった、警察署、交通安全指導員、学校、PTA 役員での反省会を開催し、今後の課題点を含め協議しました。さらに、その内容を各学年だより等で保護者へお知らせし、各家庭でもう一度交通安全について考えてもらう機会を作ってもらいました。

また、PTA 理事会では長期休みの交通安全について再度確認し、各支部、各クラスへの周知徹底を行っています。



8. 最後に

本年 6 月に千葉県八街市の路上でトラックが小学生の列に突っ込み児童 5 人が死傷するという非常に痛ましい事故が起こってしまいました。子どもたちに交通安全のルールを教え指導通りに安全に歩いていたのに、大人の無謀な運転によりこのような事故が起こってしまいました。現場は、道路幅員が狭く非常に交通量が多かったそうです。このような事故が起きないことを祈るばかりです。

日野小学校 PTA としましては、学校と連携し役員が交通安全教室に参加し、公道での子どもたちの歩行練習、自転車走行練習を実際に見ることにより、日野小学校管内の危険個所、交通量について把握でき、また、子どもたちの交通安全に対する意識を学校と共有しあうことにより交通事故防止に効果があると考えます。

最後に、子どもたちが安心、安全で笑顔で通えるよう、学校、保護者、地域が団結し子どもたちを守ります。

学校を支援するための、主体的なPTA活動をめざして

～インターネット・SNSをより良く利用するために～

須坂市立常盤中学校PTA

1 常盤中学校と常盤中学校PTAについて

常盤中学校の全校生徒は、371名で、明るく穏やかな生徒が多い。中学校の昇降口は「登竜門」という名称がつけられている。学校目標「たくましい人になる」のもと、生徒達は毎朝「登竜門」を通して登校し、生徒会（校友会）や学校行事、部活動に活躍の姿を見せている。

PTAの組織は、三役会（会長1名 副会長3名 参与2名 顧問1名 幹事2名）、理事会（三役会 学年会長3名 支部長会長 専門委員長3名）、評議員会（理事会 正副学級会長22名 支部長17名 専門副委員長4名 監事1名）、正副学級会長会、人権委員会、教養委員会、厚生・施設委員会、支部長会 のようになっている。

例年のPTA運営の状況は、PTA総会（4月）、PTA環境整備作業（6月）、PTA講演会（7月）、資源回収（8月）、常盤祭（9月）、PTA音楽祭（11月）、人権学習まとめ集会参加（12月）、人権だより「しあわせ」発行、PTA新聞発行（年3回）のようになっていますが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、活動に大きな制限を受けている。



資源回収（支部長会）

2 研究について

常盤中学校では、平成30年度と令和元年度の2年間、長野県PTA連合会より第28次研究委嘱を受けた。保護者がPTA活動に積極的に参加し、学校と子どもたちのためになる研究をしたいと願い、研究テーマを「学校を支援するための、主体的なPTA活動をめざして～インターネット・SNSをより良く利用するために～」とした。

3 研究テーマ（サブテーマ）設定の趣旨

本校のPTA会員は、年間計画に沿って、活発な活動を行っている。その一方、行事等に参加する会員は固定化する傾向があり、より多くの会員の参加を促していく必要があると思われた。そこで、今日的な課題であり、保護者も子どもたちも関心の高い情報社会（インターネット・SNSなど）との関わりを活動の柱とすることにより、会員の関心を高め、主体的なPTA活動を展開していきたいと考えた。

インターネットやSNS、スマホの利用に関して、その危険性が強調されることは多い。しかし、それらはもはや、私たちの生活に必要不可欠なものになっていることも確

PTA講演会
(教養委員会と人権委員会が隔年で主催)



かである。これからの社会を生きる中学生には、それらのメリットとデメリットを理解し、より良い利用者になってほしいと願っている。そこで、PTAとして、保護者としてこの課題に対しどのように学校に関わっていけばよい



PTAコーラス（正副学級会長会）



人権学習導入集会・まとめ集会

かを研究するために、サブテーマ「インターネット・SNSをより良く利用するために」を設定した。

4 研究内容

(1) 保護者アンケートの有効活用

後述する(2)および(3)後の学級PTAにおいて、昨年度実施した「インターネット・SNSに関わるアンケート」結果を資料として話し合いを行った。インターネット・SNS利用状況は、学年間で異なっている。現状や各家庭の課題を持ち寄り、お互いの悩みを共有したり、考えを深め合ったりすることができた。

以下は、学級PTAの記録の一部である。

「スマホは買い与えず、時間を決めて親のスマホを貸しているという家庭が何軒かあった。それぞれの家庭で工夫しているという話を共有して、各家庭で再考したいと感じました。」

「家庭でSNSの使用ルールについて、話し合いをすることがある。そのことについて、親子で話し合う機会が、クラス全体であって良かったと思う。」

「ネット利用に関しては、家庭によって違いがあり、他の家族の話なども聞くことができ良かったです。」

「授業参観から親も話し合いに参加でき、家に帰ってから話すきっかけになった。」

(2) 授業(参観日の授業)への参加

情報モラル教育について、参観日に保護者参加型の授業を行った。授業では最初に、SNSの利点と問題点について学び、その後、保護者も生徒と一緒にグループに入り、本校のインターネットルールをもとにして、現状や課題を話し合った。生徒と保護者が一緒に考えることにより、メディア利用の仕方について、意識を高めることができたと考える。クラスによって差はあったが、多いクラスでは10名以上の保護者が参加し、生徒と話し合いを行った。



以下は、保護者の感想の一部である。

「授業参観から親も話し合いに参加できて、家に帰ってから話すきっかけになった。」

「SNSやネットに関しては、子どものほうが良く知っているような現状があり、親としても知識を蓄えなければいけないと感じました。」

「夏休みに向けて、子どもたちはもちろん親としてもトラブルに巻き込まれないような生活への心がけが大切だと思いました。」

「真面目に話していた。自分の時は、SNSなどなかったから、今の子どもたちは大変だと思った。気をつけて使わないと、トラブルのもとになると感じた。」

「時間を決めて使うが、なかなか守れない現状がある。そこで、タイマーをかけて時間を意識することや親との約束を作るなど、家庭でもルールをつくる必要性を感じた。」

(3) 情報モラル教育講演会の実施

松代総合病院の小児科部長で、この4月に発足した全県的な団体である、「子どもとメディア信州」のメンバーである池野一秀先生に講演をしていただいた。池野先生は、デジタルメディアと子どものこころについて精通され、地元紙である須坂新聞に「ドクター池野のイケテル談話室」を連載されており、保護者にも馴染みが深い。講演会では、「スマホとSNSについての現状」について、脳科学のデータに基づいて、わかりやすいお話をしてい



いただいた。

生徒の感想からは、ゲームの中毒性、生活・学習面への悪影響、ルールを守ることの大切さが、保護者の感想からは、危険性についての認識（再認識）、現在の使用状況についての危機感、家庭でのルールの再確認、コミュニケーションの大切さ、などを理解したことがうかがえた。

ゲームやスマホを利用している生徒もそうでない生徒も、「メディアについて、より良い利用を考える」という機会になったと考える。

以下は、保護者を書いていただいた感想である。

「脳トレをしても、認知症の人と同じ脳だというのを聞いて、ちょっとショックでした。子どもたちには、最低限の使用時間にできるように、親がしっかり見守り、管理していかなければいけないと同時に、親ももっと子どもと関わる時間をつくらなくてはならないと思いました。」

「スマートフォンのデメリットについて、よく理解できました。中学生の子どもを持つ親として、子どもを守る方法は、スマートフォンを持たせないことが一番だと改めて感じました。そして、親である私たちが、もっとスマートフォンを含め全てのメディア、SNSについて考えなければいけないと思いました。親の認識があまりになさすぎるので、そこが心配です。」

(4) 常盤祭（学校祭）意見発表会への参加

常盤祭のプログラムの一つである意見発表会に、保護者代表も参加して意見を述べた。今年のテーマ、「中学生の SNS 利用を禁止するべきか」に対し、生徒達に続いて保護者も意見を発表した。「禁止するべき」として、「時間を決めて利用するといっても、守ることができない」や「SNS など、人とつながることで、悪い情報が入ってくることもある」という意見が出された。これに対して、「禁止するべきでない」として、「常中ルールは、子ども自身が決めたことで、使用することを前提にしている」や「高校生になったときには、必ず SNS を使う状況になる。中学生は準備期間。中 1 と中 3 では判断力が違うから、段階的に使っていくべき」などの意見が出された。

フロアにも意見を求めたところ、お二人の方に発言していただき、次のようなご意見をいただいた。

「かつては、パソコン通信のように、限られた人のみが利用するものだった。しかし現在は、閉じた世界ではなく世界中に開かれたものになっている。大人であっても、些細なことで炎上などが起こる。そのようなことが起こる覚悟があって、さらに節度を守って使えるならば、問題ないと思う」

「いまのこの場は、同級生が集まれる空間や時間。面と向かってとるコミュニケーションを、その時間とその場を、大切にしてほしい。」

このような意見を聞き、さらに生徒達からは、「保護者の方が、私たちのことを考えてくれていると感じた。これからも、ルールを守って使っていきたい。」

「改めて、禁止すべきだと思った。いろいろな意見を聞いて、まだ中学生は、節度を守って使うことができないと思う。」



池野一秀先生講演会の様子



意見発表会に参加した保護者代表の皆さん



フロアから意見を述べる保護者

「今、結論をだすことはできないけれど、話し合っていくことは、これから利用するにあたって、大切だと思ったので、これからも考えていきたい。」

などの意見が出された。

子どもたちの意見からは、保護者の考えを直接聞くことによって、考えを深めることができたと推測された。さらに、保護者にとっては子どもたちの意見を直接聞くことができた貴重な機会になった。



保護者やフロアの意見を聞いて、自分の考えを述べる生徒

(5) インターネット・SNS 利用に関わる「我が家のルール」の設定。

これまでの一連の学習や活動を、実効性のともなったものとするために、各家庭に「インターネット・SNS 利用に関わる『我が家のルール』」の設定をお願いしていく予定である。

「より良い利用者」になることを目指し、親子・家族一緒に考え、話し合うことを、各家庭に推奨していく。実際には、12月の三者懇談会において、担任の先生を通して用紙を配布し、ルール設定を呼びかけていきたいと考えている。

さらに、いくつかの家庭に協力をさせていただき、設定したルールを紹介していただくことも予定している。それらは、2月の参観日で掲示して、他の家庭でも参考にしていただきたいと考えている。加えて、新入生説明会でも紹介して、インターネット・SNS 利用に関して新入生と保護者に啓発すると同時に、常盤中学校の PTA 活動について理解を深めていただきたいと思っている。

5 研究の成果

(1) 2年間の活動を通して、会員が参加する機会が増えた。学校と協力し、参観日の授業を保護者参加型として子どもたちと一緒に考え合ったり、学校祭で意見を交換したりすることを通して、PTA 活動に主体的に参加していこうとする姿勢が多く見られた。

(2) 常盤中学校にはインターネット・SNS 利用に関する「常中ルール」がある。しかし、それが設定したときの生徒は卒業し、ルールが定められた経緯を知る在校生はほとんどいないと思われる。ルールを固定化したものと捉えず、対話によってより良い方向を探ろうとする、保護者と子ども、また保護者同士が話し合う場が多く生まれた。

6 今後の課題

現在、改めて「常中ルール」を見直していこうとする意識が高まっていると思われる。さらに、昨年度はコロナの関係で参観日の開催も制限された。今年度も見通しが見えない状況であるが、参観日などを利用して、「我が家のルール」を我が家の中だけでとどまらず、多くの家庭で共有できるようにする工夫をしていきたい。そうすることにより、家庭内での会話や保護者同士の会話が増えることを期待できると考える。今年度は、「GIGA スクール元年」にあたる。パソコンの使い方に習熟するとともに、インターネットや SNS の利用について、より良い利用者に育ってくれることを願っている。新しい「常中ルール」を子どもたちだけで考えるのではなく、保護者も参加しながら、「より良い利用者」となるための道を探っていきたい。



常盤中 SNS ルール

PTA活動の一環として呼びかけて家庭ごとに取り組んでもらった「我が家ルール」が、今般のGIGA構想で導入されたPC貸与に伴う「マイルール」作りにも形を変えて活かされていると言える。学習面でのパソコンの使い方だけでなく、健康への影響、社会に出てからの活用方法、コミュニケーションの取り方など、多面的にメリット・デメリットを捉えていくことが必要である。作った当時の生徒たちが卒業していなくなった現在、ルールを作って終わりではなく、家庭でも学校でも毎年子どもと話し合っただけでなく、ルールを更新したり、日進月歩の流れに合わせて必要な部分を見直したりすることが必要である。

7 コロナ禍におけるPTA活動

終わりの見えないコロナ禍であるが、令和3年度は感染防止対策を取りながら少しずつPTA活動を行うことができてきている。PTA総会を体育館で行い、環境整備作業も雨天であったが、委員と職員に人数を限定して校舎内で実施した。PTA人権集会については、生徒は体育館、保護者は教室でのライブ放送視聴など、工夫しながら行うことができてきた。学校に関わるPTA活動は可能な限り継続していくという活動方針の下、今後も状況を判断しながら「できることをできるだけ」やっていくPTAであり続けていきたいと思う。



PTA作業（施設厚生委員会）



PTA人権講演会（人権委員会）

テーマ：子どもと共に活動するPTAをめざして
～「人生よかったカルタ」での交流を通して～

1 人生よかったカルタとは

考案者は和田裕美(わだひろみ)さん(株式会社 HIROWA 代表取締役 ビジネスコンサルタント 京都光華女子大学キャリア形成学科客員教授)です。和田さんの著書には、「人の心を動かす話し方」、「いざという時に結果を出す 本番力」、「ぼくはちいさくてしろい」などがあります。

本校卒業生の保護者の青木孝美(あおきたかみ)さん(和田式陽転エデュケーター 仁礼地区在住)が、全校で人生よかったカルタをやってみないかと声をかけてくださり、令和元年度より全校で行うようになりました。参観日に正副学級会長が中心になって進行し、親子で人生よかったカルタに取り組んでいます。

人生よかったカルタは、陽転思考を知り、それができるようにすることを目的としています。陽転思考とポジティブシンキングの違いを和田さんはこのように説明しています。

ポジティブシンキング

ポジティブシンキングはいいことだけをイメージし、ネガティブなことはイメージをしないようにするという考え方です。これは成功体験がたくさんある人なら、すんなり実行できる場合もありますが、そうでない人にとって「不安にならない」ということはとても難しいものです。

陽転思考

陽転思考は泣いてもいいし怒ってもいい、ネガティブな感情を許可しそれらを受け入れてから切り替えるという方法であり、マイナスのことを否定しません。いいとか悪いという二元論ではなく、「すべての事実はひとつですよ。見方を変えて見ましょう」という考え方であり、どんな人にもできる思考法なのです。事実はひとつ、考え方はふたつ!!いつも事実はひとつで、考え方はふたつ(大きくわけて)あります。夜と朝があるように、絶えず明暗が分かれるふたつがあるのです。光があたれば影ができる。昼があれば夜もある。いつも100%明るく考えなくてはいけないのではなくて、暗い部分を知っているから明るい部分の良さが分かるのです。



2 日程

令和2年度

6月 8日(月) PTA人権学習研修会 青木孝美さんによる「人生よかったカルタ」の研修
PTA(正副会長、監事、学年代表部員、教養部員)、職員 参加

6月22日(月) 授業参観にて各学級で親子一緒に「人生よかったカルタ」を実施
進行:学年代表部員(学級会長)、教養部員(学級副会長) 補助:職員

令和元年度も、5月27日(月)にPTA人権学習研修会、6月17日(月)の授業参観にて各学級で親子一緒に「人生よかったカルタ」を実施しました。その様子を11月16日(土)にメセナホールで行われた「部落差別をはじめあらゆる差別をなくす市民大集会」で発表しました。



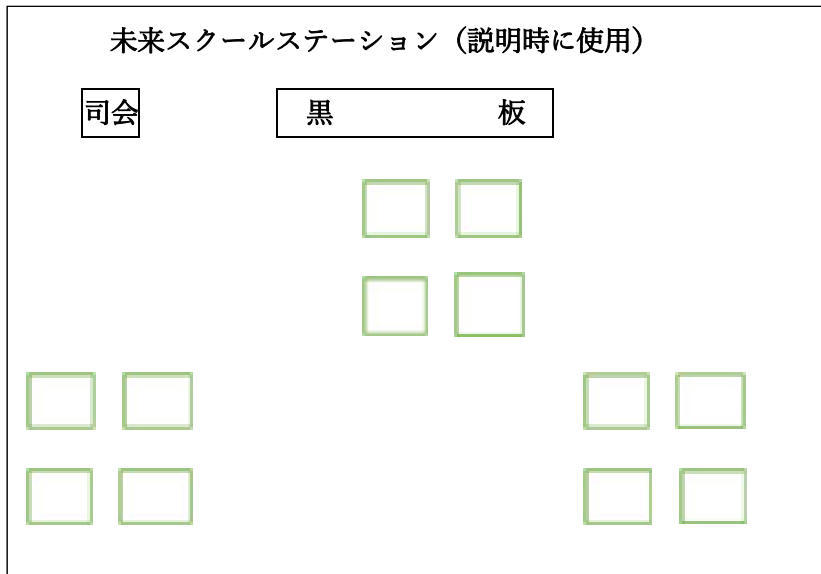
3 学校での準備品

- ・よかったカルタ 各教室に1箱 計12箱(6クラスを12教室に分けて実施)
- ・付箋紙(ブレインストーミングで使用)
- ・よかったカルタのカラーコピー
- ・進行の流れのプリント
- ・感想記入用紙
- ・放送機器、プロジェクター(普通教室には設置済み)
- ・放送室(青木さんの全体説明が放送できるように)
- ・保護者の椅子

4 進行計画(概要)

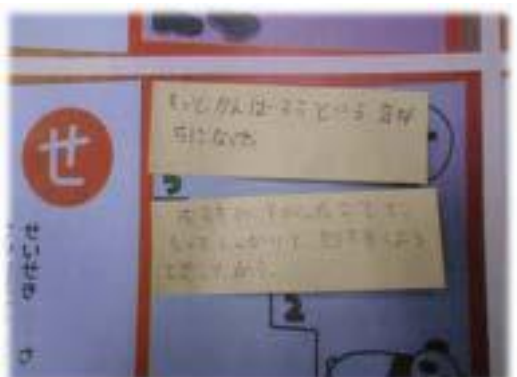
- | | |
|---|------------------|
| ①よかった探して? 説明 | 【8分】(進行:青木さん) |
| ②例題で練習する お題:お年玉が少なくてよかった
教室移動(2年生のみ移動あり) | ↓ 放送
【2分】 |
| ③ブレインストーミング(付箋紙に考えを書いて発表) | 【15分】(進行:正副学級会長) |
| ④人生よかったカルタをやってみよう | ↓
【13分】 |
| ⑤反省感想記入・発表 | 【5分】 |
| ⑥片づけ・移動準備 | ↓
【7分】 |
- (この後、生徒、保護者が参加しての講演会)

5 会場図



(常時換気を行う)


- ・ 4つの机を配置し、グループにして行う
- ・ 保護者は自分の子どものグループに入る
- ・ 読み手はグループの中で相談して決める



6 進行計画（詳細）

学習活動	備考	時間
<p>①よかった探して？ 説明 （放送：青木さん）</p> <p>これから「よかったカルタ」を始めます。 まず「よかった探し」「陽転思考」の説明をします。</p> <p>●(PTA 会長)</p> <p>入学式に PTA 会長さんがお祝いの言葉で「今コロナで大変だからこそ、昨年『よかったカルタの授業』をしてよかった。新一年生も参観日に親子と一緒に『よかったカルタの授業』をしましょう」とお話されたとお聞きしています。</p> <p>なんて素晴らしい。東中学校ますますいい学校になっていくと思いました。</p> <p>●「陽転思考」</p> <p>太陽のように明るい方へ考えを切り替えることです。</p> <p>●「事実はひとつ 考え方はふたつ」</p> <p>先月若いプロレスラーの子が自らの命を。 多感な中学生の皆ショックだったですね。 誹謗中傷、いじめ、人を責める言葉の暴力は本当に切ないものです。 もし人から傷つけられる言葉を言われたらみんなはどう思う？ 「あーついてな、イヤだなあ」って思う。 頭の中の検索窓に「イヤだな、ついてない」ダメだダメだと嫌なことばかり見えてくる。</p> <p>●泥バケツ</p> <p>それは泥バケツの中にいる状態。 この泥バケツに入ってしまうと真っ暗で周りも見えない。口をあければ口の中にも泥が入ってくる。そんな状態。まさに「渦中」</p> <p>その泥バケツから抜け出す秘訣 魔法のような方法は、 頭の検索キーワードを「よかった」に変えます。 「よかった」と言ってから「なんでですか」と自分に問いかけ 「その事実の中からよかったを探す」 そう考えている時、冷静になれ泥バケツ(渦中)から抜けることができるのです。</p> <p>●差</p> <p>中学生、テストに部活、いろいろ人と比べてしまうこともあるかもしれません。</p>	<p>生徒は最初からグループになっておく。 保護者は説明を聞いた後、自分の子どものグループに入る。</p>	<p>8分</p>

<p>大切なことをこれから言います。よく聞いて 「能力に差はない。あるのは考え方の差だけ」 何か嫌なことがあったとき「よかった探し」して切り替えて一歩踏み出すのが早いとその差が違いになる。</p> <p>●三者面談 もう卒業しましたが うちの子はA先生に教わり、中3の三者面談。 先生がテストを返して、娘はドキッとした表情。 先生は何も言わず、たった一言、 「Sさん、よかったカルタ的に言うと」 娘は、 「もっと勉強すればよかった！」 自分で考え自分でよかった答えを導き出せる。</p> <p>●クセ 食べ方、歩き方、右きき左ききのように考え方にもクセがある。このクセは「よかった探し」をすると直ります。性格も悪いんじゃなく考え方のクセを直せば性格もよくなる。 自分が好きになり周りもハッピー。 人生が好転していくよかったを探すクセをつけましょう。</p>		
<p>②例題で練習する ここでお題を出します。考えてみましょう。 例題を出す。 先生や研修に出席された方を指名してみてください。答えが出たら「いいね」を促す。 例 お年玉が少なくてよかった。→〇〇だったから。 (1) 自分の課題が見つかってよかった。→これから練習を真剣に頑張れるから。 (2) 宿題が多いけれど、よかった。→学習の内容がわかったから。 (3) 親に叱られたけど、よかった。→自分の欠点がわかったから。 (4) 風邪をひいたけどよかった。→家族の優しさがわかったから。</p> <p>2年生は教室を移動してください。(1・3年生は先に進む。)</p>	<p>プリント①を 黒板に貼る</p>	<p>2分</p>
<p>③ブレインストーミング 次に皆さんにもやってもらいます。 付箋紙にまず自分なりに「〇〇してよかった。なぜなら〇〇だから。」と書</p>	<p>プリント②を 黒板に貼る</p>	<p>15分</p>

<p>いてください。その後、グループの中でたくさんの意見を出してみてください。その後、班の中で良かったものを全体で発表してもらいます。 (意見交換) グループの代表は発表してください。(指名)</p>	<p>よかったカルタのカラーコピー・付箋紙を配付</p>	
<p>④人生よかったカルタをやってみよう 実際に「よかったカルタ」をやってみましょう。ではよかったカルタの取り方の説明をします。 ・班ごとに読み手を決めます。 ・読まれた絵札を見つけたら、「よかった」と言って絵札をおさえます。 ・他の人が「どうしてですか?」と問いかけ、とった人は「なぜなら、〇〇だったから。」とプラスの理由を見つけて言います。</p>	<p>よかったカルタ</p>	<p>13分</p>
<p>⑤反省感想記入・発表 時間ですので切りのいいところで終わりにしてください。感想記入用紙を配ります。 記入してください。 少し時間がたってから感想を発表してもらおう。 用紙は保護者にも配付し後日でもいいので、記入してもらおう。 まとめの言葉 進行の方が感想を一言いもう。 例) 家などでも話題にしてほしい。 楽しいことが増えるといいね。など</p>		<p>5分</p>
<p>⑥片づけ・移動準備 これでよかったカルタを終わります。片づけてカルタなどを前に戻してください。</p>		<p>7分</p>

プリント①
お年玉が少なくてよかった
→〇〇だったから。

プリント②
ブレインストーミングって何?
(アイデアを広げるための話し合い)
付箋紙に自分の考えたことを書く。

7 生徒、保護者の感想

【生徒】

- ・マイナスなことをプラスに変えることができることはよいことだと思いました。
- ・嫌なこと、がっかりしたことがあっても、プラスに考える練習ができ、これから役に立つと思いました。
- ・マイナスがプラスになって考え方が変わるし、楽しいことや学ぶことが増えて勉強になると思いました。
- ・何でも前向きに考えると暗い気持ちだったのも明るくなったり、楽しい気持ちになったりするのだなと思いました。
- ・大変なことがあったとしてもポジティブに考えられます。
- ・悲しいなどの負の感情になりにくくなると思います。
- ・落ち込んだときにやったら自分の道が見えるかもしれないと思いました。
- ・失敗してもポジティブに考えられます。
- ・みんな違う考えでいろんな事やものの見方を学ぶことができました。
- ・友達や家の人と「よかったカルタ」をやって、たくさんの「よかった」が見つかった。
- ・「よかったカルタ」を通して、プラスに考えるか、マイナスに考えるかによって、自分が変化していくことを学んだ。

【保護者】

- ・子どもの考え方がわかってよかったです。
- ・このことでいろいろな事に気づけた。これからの人生に大切なことだと思います。
- ・考えの切り替えをするのは難しいですが、他の方の考えを聞いてなるほどと思いました。時々やって、スキルを磨くとよいと思いました。
- ・プラスの面で明るく生活していけそう。プラスのことに考えることが意外と難しかったです。
- ・「いやだなー」などマイナスに思うことも考え方によって楽しくプラスの思いに変えられると思いました。今まで話した事がない方と話せて良かったです。
- ・こどもには、色々な発想があって面白いなと思いました。色々な考えを少しいい方に考えられると思いました。
- ・マイナスをプラスに考える癖がつくと思いました。
- ・考え方が柔軟になり前向きな考え方への切り換えができると思いました。
- ・子どもの発想が豊かでした。子ども達と一緒に授業に参加できて楽しかったです。
- ・プラス思考で子ども達や家族に向き合いたいです。
- ・ポジティブに考えることができるので、これからの生活に生きると思いました。
- ・とてもよいカルタだと思います。家でもやってみたいです。

【保護者 運営面の課題】

- ・初めてやる1年生はやり方を習得するのに時間がかかります。
- ・実際にカルタをやる時間が少なかったです。
- ・正副学級会長が進行するには、1回の研修会では理解が不十分です。また、不慣れな面があるので、進行ではなく、補助の立場でできればと思います。

8 その後の生徒の様子

①体育館前の連絡黒板にて

6月22日(月)に各学級で「人生よかったカルタ」を実施した後、体育館前の連絡黒板に、右のカルタを掲示して、その答えを生徒から募集しました。そして、それを黒板に書き、全校生徒に知らせました。



私が私でよかった なぜなら～(以下生徒の考えた答え)

- ・何にしても平凡だったから
- ・性格的にも外見的にも今の生活にしても何かしっくりくるから
- ・自分にしか分からない世界が見えたから
- ・すべての事を肯定できる自分が大好きだから
- ・今いる仲間に出会ってから
- ・一人一人個性があってよいから
- ・生まれてきたことがとてもスゴイから

②2学期始業式の代表生徒の発表

8月18日(火)2学期始業式の代表生徒の発表で、3年生のMさんは、「人生よかったカルタ」で考えたことをふまえて、このように文章を締めくくりました。

(前略)

一学期の私のようにやらずに生まれる後悔はあっても、自分で自分を認められる努力をして生まれる後悔は一つも無いと私は思います。「よかったカルタ」でいうと、新型コロナウイルスが大流行して大変な事態になってもよかった。なぜなら、大変な中でした努力は必ず大きく報われるから、です。「やらない後悔よりやって後悔しない」これが私の二学期の目標です。

9 令和2年度 その他のPTA活動

①避難所体験

8月22日(土)、23日(日)に体育館で、希望者を募り避難所体験を行う予定でした。それに向けて、令和2年2月17日(月)に、PTA会長、学校長をはじめ職員、生徒会三役が参加し、神林さん(元相森中PTA会長 須坂市消防署高山分署)をお招きして、打ち合わせ会を行いました。しかし、今年度はコロナ禍により実施を見合わせました。



②PTA 作業

東中学校では、平成6年から地域の緑化活動として、須高建築事務所の協力を得ながら、県道58号線（主要地方道長野須坂インター線）栃倉下橋から上流約450mの歩道脇にコスモスを植え、全生徒で苗植えや水やりなどの管理をしてきました。途中から植える花がコスモスからサルビアに替わり、須坂市のカンナプロジェクトの一環としてカンナも植えるようになりました。この場所を「コスモス街道」と名づけ、東中学校の生徒会活動の中核として四半世紀に渡って苗の定植や水やりをするとともに、PTAもPTA作業などで協力してきました。

しかしながら、東中学校の生徒数が今後減少し続けていくことを鑑み、持続可能な活動への変換をはかることになりました。令和元年度に生徒会で検討した結果、先輩方の「コスモス街道」への思いや伝統を引き継ぎながらも、より活動のしやすい場所で続けていくことを目指し、令和2年度より学校敷地内で緑化活動を行っていくことになりました。名称を新たに「アズマフラワーガーデン」とし、形は変わろうとも先輩方の魂は残していきたいという私たち生徒の願いを込め、東中の生徒一人ひとりが真剣に手入れをして学校をきれいな花で彩っています。

4回のPTA作業を通して、「アズマフラワーガーデン」の活動に参加しました。（PTA作業では、緑化活動だけでなく、落ち葉の片付け、プール回りの清掃なども行いました。）

PTA作業①5月9日(土)→中止 PTA作業②5月23日(土)

PTA作業③6月20日(土) PTA作業④7月23日(土) PTA作業⑤8月29日(土)



③資源回収

生徒会活動と協力して、PTAでは校外生活指導部が中心となり、8月22日(土)に資源回収を行いました。回収車の進路、誘導などを工夫して改善されてきていますが、学校周辺の交通渋滞が課題です。学校では、令和元年度より、生徒会が中心となり、授業参観日に回収コンテナを置き、ミニ資源回収も行っています。

